

令和6年
2024年

12月26日
木曜日

第11625号

食肉速報

THE DAILY MEAT NEWS

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



畜産物価格等に関する答申を受け取る山本佐知子政務官(左)……P2

- ▶ 畜産部会、肉用子牛保障基準価格など諮問どおり答申—農水省 …… P2
- ▶ 令和5年農業総産出額、肉用牛は和牛肉価格低下などで前年比6・8%減少 …… P3
- ▶ 加工協が令和6年度初級食肉加工技術講習会開催、受講生を募集 …… P3
- ▶ シーフォレスト社(豪州)研究開発部責任者の辰巳正幸博士に聞く …… P4~5
- ▶ [牛・豚・鶏肉需給予測] 25年1月牛肉生産は前年同月比2・9%減 …… P6
- ▶ 乳用牛への黒毛和種交配状況、第3四半期全国で2・9ポイント増 …… P6

- ▶ 農林水産関係予算概算決定額示す、総額2兆2706億円—自民党 …… P7
- ▶ 令和5年肉用牛生産費、子牛、去勢若齢肥育牛が増加 …… P7
- ▶ [JCA・11月] 牛肉鈍いが豚、鶏動き良く、畜産品3・9%増 …… P7
- ▶ [資料] 都道府県別枝肉生産量(令和6年10月) …… P8
- ▶ [資料] 乳用牛への黒毛和種の交配状況(速報) …… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 25日 …… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 25日 …… P11

注目のヘッドライン

畜産部会、肉用子牛保障基準価格など諮問どおり答申—農水省

農水省は25日、食料・農業・農村政策審議会畜産部会(令和6年度第8回)を省内で開催し、7年度畜産物価格などを審議し、諮問案どおり答申した。

…詳細はP2

シーフォレスト社(豪州)研究開発部責任者の辰巳正幸博士に聞く

…詳細はP4~5

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回

2025 食肉産業展

2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

食肉産業展 HP

ご来場をお待ちしております!

開催テーマ

肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● 2025年 3月11日(火) ⇒ 14日(金)

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール

主催 ● 食肉産業展実行委員会
後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

同時開催

アジア最大級の食品・飲料総合展示会

The 50th International Food and Beverage Exhibition

FOODEX JAPAN 2025

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

食肉産業展東京事務局 ☎03-3663-2011

畜産部会、肉用子牛保障基準価格など諮問どおり答申—農水省

農水省は25日、食料・農業・農村政策審議会畜産部会(令和6年度第8回)を省内で開催し、7年度畜産物価格などを審議、諮問案どおり答申した。

このうち、肉用子牛保障基準価格は、黒毛和種は57万4千円(6年度価格56万4千円)、褐毛和種は52万3千円(51万4千円)、その他の肉専用種は33万4千円(32万8千円)となった。また、乳用種、交雑種については、乳用種16万4千円、交雑種27万4千円と、前年から据え置きとなった。合理化目標価格については、黒毛和種が44万6千円(44万4千円)、褐毛和種が40万6千円(40万4千円)、その他の肉専用種が25万9千円(25万8千円)と増額。乳用種は11万円、交雑種は21万6千円と前年同額となった。

配合飼料価格の高止まりなどによるコストの増大、物価上昇に伴う消費者の生活防衛意識の高まりなどによる和牛肉の枝肉価格の低下により、肥育農家における素畜の購買意欲の低下がみられている。黒毛和種の子牛価格は低迷が続いており、繁殖経営は大変厳しい状況だ。このため、7年度も6年度に引き続き、和子牛平均価格が発動基準を下回った場合に飼養管理向上に取り組む和子牛生産者に奨励金を交付する優良和子牛生産推進緊急支援事業を継続措置。なお、同事業の発動基準においては、保障基準価格の増額に伴い、黒毛和種は61万円(必要取組数二つ、奨励金単価1万円/頭)、59万円(三つ、二万円/1頭)、58万円(四つ、3万円/頭)の3段階と、それぞれ1万円引き上げとなる。

部会では委員から次のような意見が上がった。

「肉用子牛生産者補給金制度については、特に黒毛和種の保障基準価格が3年連続で引き上げとなっており、生産コストの上昇を踏まえて設定していただいたと認識している。緊急対策の拡充も含め、危機的な状況にある生産現場にとって、大きなメッセージになると考える。今回の畜産物価格とは別に、和牛肉需要拡大対策をはじめとし、補正予算の支援を大幅に拡充いただいた。一方で、畜産、酪農における農家戸数は大幅に縮小している。生産者が希望を持って営農を継続するためにも、次期酪肉近における中長期的な指針とそれを裏付ける施策が重要である」(全国農業協同組合中央会・馬場利彦専務理事)」

「和牛については、保障基準価格に合わせ、緊急支援事業も措置していただき大変評価している。今一番問題なのは、ここまで餌が上がってしまうと、本来に飼養効率の良い素牛でないと買えないということ。一方で、しっかりと利益を出し、再生産できている和子牛生産者もいる。今後は、和子牛の品質を上げていく政策をしていかなければいけない。しかし、これは即効性がないので、中長期的な課題として考えてもらいたい。乳用種などについては、値頃感のある肉というだけでなく、国産の安全・安心な赤身肉という点で、これから消費者にどう提供していくか議論していく必要がある」(トップファーム・井上登会長)

「なぜ和牛肉が出なくなっているかを立ち止まって考える必要がある。物価高の要因だけでなく、消費者需要とのミスマッチがあるのでは。長期的にはそこも考えていく必要がある」(神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター・大山憲二教授)

これらの意見に対し、食肉鶏卵課の伊藤大介課長は「補給金制度や緊急対策などをしっかりと運営しながら、繁殖経営の支援を適切に行っていききたい。品質の良い子牛を育てていく、そして消費の出口を作っていく、さらには消費者ニーズに応える生産を行っていくことは非常に重要。霜降りから赤身まで、消費者のニーズは多様である中、和牛、乳用種、交雑種全体で応えている状況。国産牛肉としての価値を見出し、それを振興していくことが大事であるので、次期酪肉近に向けた議論の中でも進めていきたい」と述べた。

和牛肉需要拡大については、「現場で活用が図られるように、国として周知を図っていききたい」とした上で、「(和牛肉枝肉価格が軟調に推移していることに関しては)生産量が堅調な中、物価高により消費者の生活防衛意識が高まっていることが大きな要因であると考え。需給が緩和している状況の中で和牛の需要拡大によって消費の出口を少しでも作っていくことは大切である。一方で、中長期的な視点も必要。現在、A5牛肉が全体の格付割合の6割を超える状況になっている。海外産との差別化になっている一方、オレイン酸などの新たな取り組みを踏まえながら、今後の和牛の生産のあり方を議論していく」と回答した。

令和5年農業総産出額、肉用牛は和牛肉価格低下などで前年比6・8%減少

農水省は24日、令和5年農業総産出額および生産農業所得を公表した。それによると、5年の農業総産出額は、耕種では米や野菜、畜産では鶏卵の価格が上昇したことなどから、前年に比べ4981億円(5・5%)増加し、9兆4991億円となった。生産農業所得は、農産物の価格が上昇したことなどから、1880億円(6・1%)増加し、3兆2,930億円(農業総産出額に占める割合34・7%)となった。

このうち、畜産部門の農業総算出額は、前年から2千億円増加の3兆7248億円(39・2%)となった。

品目別にみると、肉用牛は、生産基盤の強化が推進される中、和牛改良の進展や飼養管理技術の向上などにより高品質な牛肉の割合が増加し、牛肉の輸出も増加傾向で推移してきたが、5年は、前年に比べ561億円(6・8%)減少し、7696億円となった。これは、和牛および交雑種の出荷頭数が引き続き増加する中、和牛肉の需要が軟調に推移し価格が低下したことなどが影響したものと考えられる。

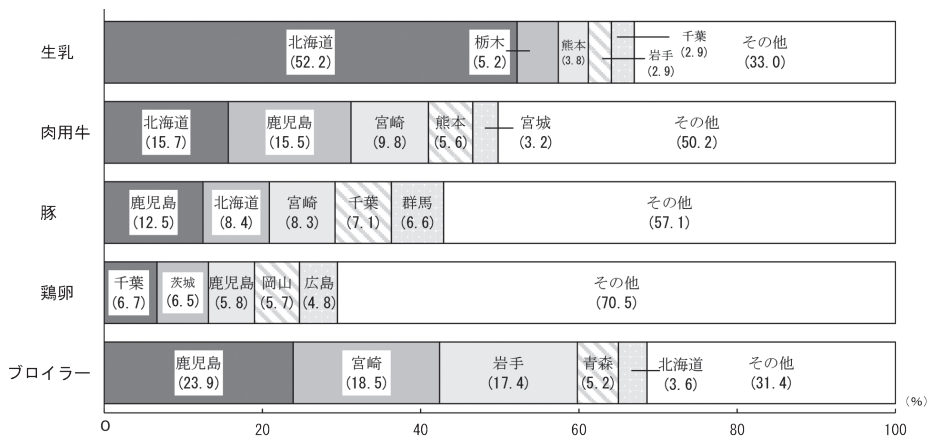
豚は、飼養管理技術の向上などにより出荷頭数が増加傾向で推移する中、巣ごもりや節約志向の高まりによる需要の増加で豚肉価格は堅調に推移しており、近年、豚の産出額は6千億円台で推移してきた。5年は、前年に比べ481億円(7・2%)増加し、7194億円となった。これは、出荷頭数は前年を下回ったものの、引き続き需要が高く、価格が堅調に推移したことなどが寄与

したものと考えられる。

ブロイラーは、経営の大規模化の進展などを背景とした生産量の増加や、消費者の健康志向の高まり等により、特にムネ肉を使った商品開発が進んだことから、2年以降、産出額は増加傾向で推移してきた。5年は、前年に比べ531億円(13・5%)増加し、4471億円となった。これは、国内生産量は前年並みとなったものの、引き続き需要が高く、価格が上昇したことなどが寄与したものと考えられる。

また、5年における農業産出額の上位5都道府県は、北海道が1兆3478億円(前年比4・3%増)、鹿児島県が5438億円(6・3%増)、茨城県が4571億円(3・7%増)、千葉県が4029億円(9・6%増)、熊本県が3757億円(7・0%増)の順となった。

畜産部門における部門・品目別産出額の都道府県別割合をみると、生乳は北海道(構成割合52・2%)、肉用牛は北海道(15・7%)、豚は鹿児島県(12・5%)、鶏卵は千葉県(6・7%)、ブロイラーは鹿児島県(23・9%)が最も大きくなっている。



加工協が令和6年度初級食肉加工技術講習会開催、受講生を募集

一般社団法人日本食肉加工協会(木藤哲大理事長)は、来年1月23、24日(オンライン)、2月5~7日(対面、会場は日本大学生物資源科学部食品加工実習室)の日程で、令和6年度初級食肉加工技術講習会を開催するに当たり受講生を募集している。食品の衛生管理などに関する知識の習得を希望する者を対象

に、食肉加工業界をとりまく社会的情勢の理解と、食肉加工品の基礎的な知識の習得を図り、製造体験を実施する目的。受講料は会員4万9500円、会員外7万4250円(いずれもテキスト代、消費税を含む)。定員40人。申込締め切りは1月10日。問い合わせは日本食肉加工協会管理部=電話03(3444)1772まで。

牛の放出するメタンガスを劇的に削減、カギケノリを研究・養殖 シーフォレスト社(豪州) 研究開発部責任者の辰巳正幸博士に聞く

脱炭素社会に向けて大きな課題となっているのが、牛のゲップなどに含まれるメタンガスだ。世界中でさまざまな対策が考えられている中、主に豪州などに生息する海藻であるカギケノリを飼料に混ぜて牛に食べさせると、劇的にメタンガスを削減することが分かっており、世界中から注目を集めている。豪州・タスマニアに拠点を置くスタートアップ企業・シーフォレスト(SEA FOREST)社は、カギケノリの研究と培養、養殖を行っており、飼料に混ぜる「シーフィード」を販売。豪州で着実に認知度を高めている。このほど、同社の研究開発部門の責任者である辰巳正幸博士が来日。最前線の現状と今後の展開などをきいた。

—シーフォレスト社の概要と事業内容についておきかせください。

当社は設立して約5年の会社であり、自分が正式に入社してからは3年半ほどになる。その前の1年間は、タスマニア大学の海洋研究に特化した「IMAS」という機関に所属していて、シーフォレスト社が大学に依頼してきたプロジェクトの研究を行っていた。その後、同社の代表からの誘いにより、入社することになった。現在は養殖に関するチームの研究開発部門の責任者として、海藻に関することは基本的に全て任されている。当社にはほかにもう一つ科学関係のチームがあり、海藻から抽出したものをどのように家畜に与えるかの研究を行っている。

カギケノリの研究については、そもそも豪州政府がメタンガスを減らすための研究費を出し、ジェームズクック大学と「CSIRO」(豪州科学産業研究機構)という米国でいえばNASAのような国立研究機関に依頼したことから始まった。今から10年以上前の2013年に、カギケノリを飼料に使用すると家畜が放出するメタンガスが98%削減するということが発見され、そこから特許の整備などを行い、論文として広く発表されたのが2016年だ。

カギケノリ自体は、豪州・ニュージーランド近海だけでなく、日本を含めた東南アジアの海岸線に多く存在する。豪州以外でも米国や欧州において、カギケノリの養殖は行われているようだが、やり方はそれぞれ



だ。もともと、カギケノリはほとんど商用化されておらず、ごく一部として、フランスでは豪州産のカギケノリが化粧品などに使用されていたようだ。

当社は海藻の養殖会社と思われることが多いが、そうではない。その大きな理由の一つとして、自分のような研究者が参加しているということもあるが、これまで築いてきたノウハウを継続しているわけではなく、そもそもカギケノリの培養の仕方はまだ誰にも分からない状態から活動が始まっている。それをどう商業化していくかを研究し、培養、さらに海藻に含まれる有効成分を抽出して、どうやって家畜に与えるのか。すでに商業レベルで養殖を開始しており、「シーフィード」を使うことでどのくらいメタンガスを削減できるのかというところまで、全てに関わっている。

—「シーフィード」を牛に与えることで、実際にどのくらいのメタン削減効果があるのでしょうか。また、牛肉の食味への影響などはありますか。

牛が1日で食べる飼料の約0.5%にカギケノリから抽出した油を入れることで、実用ベースでも約80%のメタンを削減可能となる。実際に牛に給与する上で、最も費用対効果が高まるのが80%くらいであり、生産者の飼料の与え方などによっても変わってくるものの、メタンがどれだけ減らすことができるかを可視化できるようになる。

肉の品質や味に影響はみられず、むしろ、飼料効率が上昇するという研究結果もある。つまり肉質を変えず、同じ飼料の量でより効率的な生産を行うことができるようになる。データとしてはまだ十分とはいえないが、今後データを蓄積させていき、より拡大を図りたい。

一方、世界的にみれば、牛の多くが放牧されているが、これはシーフィードを与えるという意味では、当社にとって大きな課題だと捉えている。その解決に向けた第一歩として、今年オイルベースの「シーフィード」を岩塩のような形態にした「リックブロック」の発売を開始した。豪州の「グッドデザインアワード」も受賞している。これを牛が放牧されている場所に置き、それを牛がなめることで、カギケノリの成分を摂取することができる。今後もオイルとリックブロックを主軸にして、放牧されている牛についてもさらなる給餌方法を引き続き模索していく。



—豪州国内でのシーフィードの販売状況などはいかがでしょう。

豪州国内では着実に認知度も高まってきてはいるが、まだまだ拡大の余地は大きいと考えている。課題となるのは、やはりコスト面であり、静観している企業も多い。「シーフィード」を飼料に加えると、コストが増えるのでそれをリカバリーする方法が必要になる。

それでも実際に使っていただいている企業は増えている。特に大手企業への提案を強化していくことで、“ローメタン”の市場を確立していただき、小規模な生産者にも安心して使っていただくという方向を目指している。

実例を上げると、豪州で約170店舗を出店し、国内第3位の規模を誇るハンバーガーチェーンが実際に「ゲームチェンジャーバーガー」というローメタンバーガーを販売している。ローメタンのビーフを使用したパティを使用していること以外は通常のバーガーと味や形も一切変わらない。ただ、ゲームチェンジャーバーガーには、1豪ドルのプレミアムを付けて販売。通常のバーガーを頼む人に向けて、ゲームチェンジャーバーガーを頼むことで環境を守ろうといったプロモーションを行っている。

その結果、発売後に通常のバーガーに1ドル多く支払い、ゲームチェンジャーバーガーを選ぶ人が35%に上った。環境に関する意識調査などでは、だいたい半数がより価格が上がっても環境に良い方を選択するという結果になるが、実際に購入時にその選

択をする人は5%にも満たないことも多い。同チェーンは、競合他社に比べて客単価も高いが、それを差し引いても今回のゲームチェンジャーバーガーが予想以上に多くの人に選ばれていることは、ほかの企業にも導入に向けた大きな確信をもたらすだろう。さらにローメタンのビーフを使用したメニューを提供しているレストランもあるほか、タスマニアの家族経営牧場が世界初のローメタンミルク「エコミルク」を販売するなど、環境先進国である豪州では着実に関心が高まってきている。

—今後、日本を含めた豪州国外での展開についてはどうお考えですか。

そもそもこのカギケノリは新たなテクノロジーであり、どこの国に行っても飼料添加物として登録されているわけではない。そのステップ1として、各国の認証プロセスが必要となってくるので、そうしたことに向けた準備にはすでに着手している。日本からの問い合わせも非常に増えている。

—需要が飛躍的に拡大した場合、供給量確保の見通しはいかがですか。

現在、海中には1800ha規模の養殖場があり、さらに需要が拡大すれば、周辺の場所も政府から借りることができる予定だ。周囲の広さは3,500haあるので、将来的には合計5,300ha、東京ディズニーリゾートが53個入る規模の生産拠点を持つことになる。

また、カギケノリは陸上養殖も可能だ。タスマニアでは在来種であるため、海中で育てられるが、例えば今後海外の遠い地域の牛に「シーフィード」を与える場合、豪州から輸送することで炭素排出量が増加してしまえば本末転倒だ。その点、陸上栽培ができれば、現地で育てることも可能だ。

当社も海中の養殖場のほか、3年前に陸上養殖用の土地を購入。現在30haの陸上養殖場を建設している。ただ、例えばそれらの生産量全てを足したとしても豪州全土の牛に与えられるようなボリュームには到底至らない。今後は市場の需要の拡大に合わせて徐々に生産量も増やしていく必要がある。

【牛・豚・鶏肉需給予測】25年1月牛肉生産は前年同月比2・9%減

農畜産業振興機構は25日、12月と来年1月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。それによると、牛肉の生産量は12月が3万4100t(8・0%増)、1月が2万6500t(2・9%減)と予測されている。品種別出荷頭数は、12月は和牛が11・5%増、交雑種が13・0%増、乳用種が4・4%減、1月は和牛が5・6%減、交雑種が8・9%増、乳用種が6・3%減とそれぞれ予測している。

また、輸入量は12月が3万5100t(2・7%減)、1月が3万5500t(17・9%減)とそれぞれ予測。内訳をみると、12月は冷蔵品が2・1%減、冷凍品が3・1%減、1月は冷蔵品が15・6%減、冷凍品が19・3%減と見込んでいる。

冷蔵品については、国内需要の低迷により低調に推移する中、主要輸入相手の米国産輸入量の減少が見込まれることなどから、12月はわずかに、1月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回るとの予測だ。なお、3カ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測している。一方、冷凍品は輸入品在庫量が高水準であることなどにより低調に推移する中、主要輸入相手の米国産輸入量の減少などから、12月はやや、1月は大幅に、いずれも前年同月を下回るとみており、3カ月平均でも前年同期をかなりの程度下回ると予測している。

豚肉は、生産量は12月が8万2700t(1・9%増)、1月が7万9千t(1・6%減)の予測。輸入量は、12月が7万8500t(16・0%増)、1月が7万6900t(6・8%

増)としている。内訳をみると、12月は冷蔵品が8・9%増、冷凍品が22・0%増、1月は冷蔵品が5・6%減、冷凍品が18・2%増と見込んでいる。

鶏肉の生産量は、12月が15万7800t(1・5%増)、1月が14万600t(0・3%増)の予測。輸入量は、12月が5万2千t(1・9%増)、1月が4万7400t(13・3%減)と予測している。

牛・豚・鶏の需給予測

(単位:t、%)

	12月		1月		
	頭数	前年比	頭数	前年比	
牛 計	104,900	107.2	83,200	97.3	
和牛	53,400	111.5	37,100	94.4	
交雑牛	26,300	113.0	21,800	108.9	
乳牛	24,300	95.6	23,600	93.7	
豚	150,600	103.0	1,414,000	100.0	
部分肉の需給予測					
牛肉	生産量	34,100	108.0	26,500	97.1
	輸入量	35,100	97.3	35,500	82.1
	出回り量	78,400	103.5	62,600	94.9
	月末在庫量	138,500	106.7	137,900	103.0
豚肉	生産量	82,700	101.9	79,000	98.4
	輸入量	78,500	116.0	76,900	106.8
	出回り量	165,100	102.2	151,300	101.1
	月末在庫量	212,300	110.8	216,900	111.8
鶏肉	生産量	157,800	101.5	140,600	100.3
	輸入量	52,000	101.9	47,400	86.7
	出回り量	216,300	104.0	186,900	100.0
	月末在庫量	163,500	109.6	164,600	104.8
輸入量の内訳(部分肉ベース)					
牛肉	冷蔵	14,700	97.9	14,300	84.4
	冷凍	20,400	96.9	21,200	80.7
	合計	35,100	97.3	35,500	82.1
豚肉	冷蔵	33,600	108.9	32,700	94.4
	冷凍	44,900	122.0	44,200	118.2
	合計	78,500	116.0	76,900	106.8

乳用牛への黒毛和種交配状況、第3四半期全国で2・9ポイント増

一般社団法人日本家畜人工授精師協会が公表した令和6年第3四半期(7~9月期)の乳用牛への黒毛和種の交配割合は、全国で39・6%(前年同期比3・5ポイン

ト減)、北海道で28・3%(1・0ポイント減)となった。また、性選別精液の割合は、全国で23・6%(2・9ポイント増)となっている。(9面に交配状況の表掲載)

農林水産関係予算概算決定額示す、総額2兆2706億円—自民党

自民党の総合農林政策調査会・農林部会・農政推進協議会が25日、党内で開催され、令和7年度農林水産関係予算(大臣折衝結果報告)について示した。それによると、7年度農林水産関係予算の概算決定額は2兆2706億円(公共=6966億円、非公共=1兆5741億円)とし、前年度予算額2兆2686億円の0.1%増となった。財務大臣との折衝結果では、折衝事項に「地域計画を核とした施策の構築」として、

「共同利用施設の整備」「担い手への機械導入支援」「新規就農者の育成・確保」へ327億円、また、「日本型直接支払の見直し等による施策の充実・強化」として「多面的支払交付金」「中山間地域等直接支払交付金」「環境保全型農業直接支払交付金」「森林・山村地域活性化振興対策」「漁場生産力・水産多面的機能強化対策」へ836億円の予算確保が報告された。

令和5年肉用牛生産費、子牛、去勢若齢肥育牛が増加

令和5年の肉用牛1頭当たり資本利子・地代全額算入生産費(全算入生産費)は、前年に比べ、子牛が6.3%増、去勢若齢肥育牛が4.1%増、乳用雄育成牛が22.7%減、乳用雄肥育牛が3.3%減、交雑種育成牛が18.2%減、交雑種育成牛が1.3%減少となった。

肉用種の繁殖雌牛を飼養し、子牛を販売する経営体における子牛1頭当たり全算入生産費は、86万4024円で前年に比べ6.3%増加した。

去勢若齢肥育牛1頭当たり全算入生産費は、146万8063円で前年に比べ4.1%増加。生体100kg当たり全算入生産費は18万1103円で、前年に比べ3.8%増加した。

乳用種育成牛1頭当たり全算入生産費は、20万892円で前年に比べ22.7%減少した。

乳用雄肥育牛1頭当たり全算入生産費は、59万8641円で前年に比べ3.3%減少した。生体100kg当たり全算入生産費は7万7976円で、前年に比べ1.6%減少した。

交雑種育成牛1頭当たり全算入生産費は、27万4358円で前年に比べ18.2%減少した。

交雑種肥育牛1頭当たり全算入生産費は、85万425円で前年に比べ1.3%減少。生体100kg当たり全算入生産費は10万1630円で、前年に比べ1.9%減少した。

一方、肥育豚1頭当たり資本利子・地代全額算入生産費は、4万5816円で前年に比べ5.2%増加し、生体100kg当たり全算入生産費は3万9303円で前年に比べ3.8%増加した。

【JCA・11月】牛肉鈍いが豚、鶏動き良く、畜産品3.9%増

日本チェーンストア協会がまとめた販売統計速報によると、11月の食料品合計販売金額は7292億8155万円(既存店ベースの前年同月比5.0%増)だった。うち、畜産品の売り上げは892億1690万円(3.9%増)だった。豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉、鶏卵の動きは鈍かった。ハム・ソーセージはまずまずの動きだった。

総菜は996億5717万円(5.9%増)で、温総菜は、フライ、天ぷら、オードブル、から揚げ、グラタン、焼き

鳥などは好調。要冷総菜は、和・洋総菜ともに動きは良かった。米飯、すしもまずまずの動きだった。

その他の食品(4.5%増)は、米、チルド飲料、野菜系飲料、アイスクリーム、ヨーグルト、冷凍食品、パスタ、缶詰などの動きは良かったが、乳製品、牛乳、パン類、麺類、スープ、ピザ、鍋つゆ、練り物、食用油、清酒、焼酎、ビールなどの動きは鈍かった。

農産品(7.8%増)は、白菜、長ねぎ、じゃがいも、トマト、キャベツ、きのこ類などは好調だった。

[資料] 都道府県別枝肉生産量 (令和6年10月)

Table with columns for Prefecture, Pig, Cattle, Horse, and Lamb production metrics. Includes sub-headers for '成乳牛' and 'その日の牛' with further breakdowns like '小計', '去勢', 'おす', 'メス', '小計', '去勢', 'メス', 'おす'. Total production for all prefectures is 2,028.2 t.

[資料] 乳用牛への黒毛和種の交配状況(速報)

令和6年12月25日
(一社) 日本家畜人工授精師協会

延べ人工授精頭数に占める黒毛和種精液授精頭数の割合

(単位:頭、%、県)

人工授精時期	項目	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中四国	九州	(参考)		
										都府県平均	全国平均	既調査県数
令和2年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,023,462	40,623	76,107	16,359	6,192	19,090	20,908	29,751			
	うち黒毛和種授精	262,674	15,558	40,413	9,446	3,321	11,520	14,137	18,981			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(38.3)	(53.1)	(57.7)	(53.6)	(60.3)	(67.6)	(63.8)	(51.4)	(37.3)	46
令和3年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,011,877	37,891	73,267	15,879	5,754	17,860	20,734	27,549			
	うち黒毛和種授精	251,333	13,937	38,290	9,239	2,872	11,201	14,703	18,050			
	(黒毛和種の割合%)	(24.8)	(36.8)	(52.3)	(58.2)	(49.9)	(62.7)	(70.9)	(65.5)	(52.2)	(37.0)	46
令和4年 1~12月	延べ人工授精頭数	934,137	32,672	65,774	14,427	4,584	16,772	16,820	23,097			
	うち黒毛和種授精	276,605	13,702	37,468	8,357	2,515	11,299	11,832	15,792			
	(黒毛和種の割合%)	(29.6)	(41.9)	(57.0)	(57.9)	(54.9)	(67.4)	(70.3)	(68.4)	(55.6)	(41.1)	46
令和5年 1~12月	延べ人工授精頭数	919,482	30,653	58,863	18,850	3,759	15,040	15,748	19,928			
	うち黒毛和種授精	267,280	13,031	33,496	12,937	2,295	10,344	11,683	13,813			
	(黒毛和種の割合%)	(29.1)	(42.5)	(56.9)	(68.6)	(61.1)	(68.8)	(74.2)	(69.3)	(58.1)	(41.8)	46
2019年 7~9月	延べ人工授精頭数	262,866	10,422	16,909	3,273	1,535	4,093	4,895	5,996			
	うち黒毛和種授精	67,706	4,256	9,267	1,872	813	2,640	3,576	4,051			
	(黒毛和種の割合%)	(25.8)	(42.4)	(54.8)	(57.2)	(53.0)	(64.5)	(73.1)	(67.6)	(53.9)	(38.2)	46
2019年 10~12月	延べ人工授精頭数	270,480	12,059	21,219	4,979	2,118	5,224	6,135	8,727			
	うち黒毛和種授精	71,609	4,857	11,237	2,865	1,114	3,050	4,236	5,409			
	(黒毛和種の割合%)	(26.5)	(40.3)	(53.0)	(57.5)	(52.6)	(58.4)	(69.0)	(62.0)	(50.7)	(37.2)	46
令和2年 1~3月	延べ人工授精頭数	250,205	11,080	20,552	4,732	1,705	4,963	6,095	8,339			
	うち黒毛和種授精	67,947	4,471	11,164	2,790	877	2,919	4,248	5,337			
	(黒毛和種の割合%)	(27.2)	(40.4)	(54.3)	(59.0)	(51.4)	(58.8)	(69.7)	(64.0)	(52.1)	(38.4)	46
令和2年 4~6月	延べ人工授精頭数	249,001	9,972	19,311	4,167	1,579	4,797	4,824	7,040			
	うち黒毛和種授精	66,260	3,880	10,393	2,351	848	2,829	3,108	4,355			
	(黒毛和種の割合%)	(26.6)	(38.9)	(53.8)	(56.4)	(53.7)	(59.0)	(64.4)	(61.9)	(51.1)	(37.6)	46
令和2年 7~9月	延べ人工授精頭数	254,346	8,998	15,844	2,825	1,432	4,030	4,179	5,529			
	うち黒毛和種授精	65,263	3,506	8,622	1,750	810	2,681	2,760	3,675			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(39.0)	(54.4)	(61.9)	(56.6)	(66.5)	(66.0)	(66.5)	(53.2)	(38.0)	46
令和2年 10~12月	延べ人工授精頭数	269,910	10,573	20,400	4,635	1,476	5,300	5,810	8,843			
	うち黒毛和種授精	63,204	3,701	10,234	2,555	786	3,091	4,021	5,614			
	(黒毛和種の割合%)	(23.4)	(35.0)	(50.2)	(55.1)	(53.3)	(58.3)	(69.2)	(63.5)	(49.7)	(35.2)	46
令和3年 1~3月	延べ人工授精頭数	245,005	10,097	20,161	4,511	1,556	4,654	5,578	7,609			
	うち黒毛和種授精	58,997	3,594	10,136	2,625	770	2,760	3,864	4,883			
	(黒毛和種の割合%)	(24.1)	(35.6)	(50.3)	(58.2)	(49.5)	(59.3)	(69.3)	(64.2)	(50.6)	(35.9)	46
令和3年 4~6月	延べ人工授精頭数	250,078	9,223	18,578	3,753	1,607	4,440	5,143	7,032			
	うち黒毛和種授精	59,498	3,169	9,336	2,265	756	2,663	3,632	4,515			
	(黒毛和種の割合%)	(23.8)	(34.4)	(50.3)	(60.4)	(47.0)	(60.0)	(70.6)	(64.2)	(50.7)	(35.8)	46
令和3年 7~9月	延べ人工授精頭数	256,473	8,768	15,924	3,174	1,314	4,057	4,689	5,415			
	うち黒毛和種授精	64,336	3,400	8,692	1,921	724	2,750	3,410	3,774			
	(黒毛和種の割合%)	(25.1)	(38.8)	(54.6)	(60.5)	(55.1)	(67.8)	(72.7)	(69.7)	(54.8)	(38.3)	46
令和3年 10~12月	延べ人工授精頭数	260,321	9,803	18,604	4,441	1,277	4,709	5,324	7,493			
	うち黒毛和種授精	68,502	3,774	10,126	2,428	622	3,028	3,797	4,878			
	(黒毛和種の割合%)	(26.3)	(38.5)	(54.4)	(54.7)	(48.7)	(64.3)	(71.3)	(65.1)	(53.1)	(38.2)	46
令和4年 1~3月	延べ人工授精頭数	228,460	8,755	18,295	4,282	1,240	4,497	4,348	6,747			
	うち黒毛和種授精	65,810	3,531	10,023	2,454	633	2,877	2,808	4,404			
	(黒毛和種の割合%)	(28.8)	(40.3)	(54.8)	(57.3)	(51.0)	(64.0)	(64.6)	(65.3)	(53.0)	(39.5)	46
令和4年 4~6月	延べ人工授精頭数	233,056	7,985	16,238	3,716	1,224	4,190	4,490	5,629			
	うち黒毛和種授精	67,645	3,316	9,025	2,144	588	2,690	3,331	3,704			
	(黒毛和種の割合%)	(29.0)	(41.5)	(55.6)	(57.7)	(48.0)	(64.2)	(74.2)	(65.8)	(54.0)	(40.1)	46
令和4年 7~9月	延べ人工授精頭数	230,557	7,489	14,173	2,597	984	3,751	3,626	4,305			
	うち黒毛和種授精	70,220	3,222	8,487	1,508	559	2,676	2,704	3,157			
	(黒毛和種の割合%)	(30.5)	(43.0)	(59.9)	(58.1)	(56.8)	(71.3)	(74.6)	(73.3)	(59.1)	(43.1)	46
令和4年 10~12月	延べ人工授精頭数	242,064	8,443	17,068	3,832	1,136	4,334	4,356	6,416			
	うち黒毛和種授精	72,930	3,633	9,933	2,251	735	3,056	2,989	4,527			
	(黒毛和種の割合%)	(30.1)	(43.0)	(58.2)	(58.7)	(64.7)	(70.5)	(68.6)	(70.6)	(57.1)	(42.1)	46
令和5年 1~3月	延べ人工授精頭数	221,400	7,476	15,366	5,302	1,030	4,080	3,672	5,484			
	うち黒毛和種授精	67,708	3,291	9,034	3,605	613	2,789	2,572	3,808			
	(黒毛和種の割合%)	(30.6)	(44.0)	(58.8)	(68.0)	(59.5)	(68.4)	(70.0)	(69.4)	(58.8)	(43.0)	46
令和5年 4~6月	延べ人工授精頭数	222,995	7,597	14,250	4,673	976	3,684	4,032	4,876			
	うち黒毛和種授精	64,626	3,284	7,881	3,105	601	2,397	2,971	3,392			
	(黒毛和種の割合%)	(29.0)	(43.2)	(55.3)	(66.4)	(61.6)	(65.1)	(73.7)	(69.6)	(56.8)	(41.2)	45
令和5年 7~9月	延べ人工授精頭数	223,335	6,454	12,252	3,566	855	3,284	3,146	3,701			
	うち黒毛和種授精	65,544	2,836	7,252	2,584	557	2,476	2,466	2,672			
	(黒毛和種の割合%)	(29.3)	(43.9)	(59.2)	(72.5)	(65.1)	(75.4)	(78.4)	(72.2)	(60.8)	(43.1)	45
令和5年 10~12月	延べ人工授精頭数	251,752	9,126	16,995	5,309	898	3,992	4,898	5,867			
	うち黒毛和種授精	69,402	3,620	9,329	3,643	524	2,682	3,674	3,941			
	(黒毛和種の割合%)	(27.6)	(39.7)	(54.9)	(68.6)	(58.4)	(67.2)	(75.0)	(67.2)	(55.6)	(39.9)	45
令和6年 1~3月	延べ人工授精頭数	218,244	7,932	16,035	5,386	959	3,651	4,028	5,259			
	うち黒毛和種授精	58,199	3,194	8,523	3,463	516	2,411	3,087	3,458			
	(黒毛和種の割合%)	(26.7)	(40.3)	(53.2)	(64.3)	(53.8)	(66.0)	(76.6)	(65.8)	(53.8)	(38.4)	44
令和6年 4~6月	延べ人工授精頭数	213,228	7,294	14,201	4,498	808	3,391	3,086	4,370			
	うち黒毛和種授精	54,837	2,867	7,102	2,920	469	2,194	2,308	2,922			
	(黒毛和種の割合%)	(25.7)	(39.3)	(50.0)	(64.9)	(58.0)	(64.7)	(74.8)	(66.9)	(50.6)	(36.5)	43
令和6年 7~9月 (中間集計)	延べ人工授精頭数	198,947	6,243	11,391	2,258	779	3,026	2,134	3,099			
	うち黒毛和種授精	56,285	2,549	6,230	1,671	516	2,299	1,301	2,090			
	(黒毛和種の割合%)	(28.3)	(40.8)	(54.7)	(74.0)	(66.2)	(76.0)	(61.0)	(67.4)	(54.3)	(39.6)	44

(注) 都府県平均及び全国平均は、都道府県毎の黒毛和種授精牛の割合(%)を、各年2月1日時点の成畜飼養頭数により加重平均したものであり、地域毎の数値の合計とは一致しません。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 12月25日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,309	2,669	2,386	-	-
		安値	2,375	2,281	2,053	-	-
		平均	2,639	2,381	2,237	-	-
	71頭	頭数	46	19	6	-	-
	雌 B	高値	2,320	-	-	-	-
		安値	2,162	-	-	-	-
		平均	2,239	-	-	1,851	-
	3頭	頭数	2	-	-	1	-
	去 A	高値	2,946	2,512	2,378	-	-
		安値	2,376	2,257	2,052	-	-
		平均	2,556	2,368	2,249	-	-
	152頭	頭数	87	58	7	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B 5頭	平均	-	-	-	1,465	
	去 C 3頭	平均	-	-	-	1,456	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,610	1,508	1,340	-
		42頭	頭数	-	8	19	15
	雌 C	平均	1,713	-	1,366	1,326	-
		9頭	頭数	1	-	1	7
	去 B	平均	1,818	1,591	1,472	1,285	-
		32頭	頭数	1	7	16	8
去 C	平均	-	-	1,305	1,312	-	
8頭	頭数	-	-	5	3	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	341 428	936 1,013	- 263.5	(競り)	(相対)	
				-	6	66

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,378	1,940	1,823	1,389	-
	B	-	-	-	1,098	-
和 去	A	2,826	2,402	2,179	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	756
	C	-	-	-	858	686
乳 去	B	-	-	-	1,011	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,629	1,500	1,359	-
	C	-	-	1,453	1,337	-
交 去	B	-	1,607	1,563	1,387	-
	C	-	-	1,402	1,320	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	673	760	605	562	539
	安値	519	497	475	443	356
	平均	586	545	500	482	462
	頭数	(17)	(315)	(344)	(191)	(146)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	748	-	-	-
	安値	-	748	-	-	-
	平均	-	748	-	-	-
	頭数	(-)	(6)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 12月25日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,734	2,449	2,161	-	-
(頭数)	(3)	(2)	(1)	(-)	(-)
B	-	2,214	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,720	2,359	-	-	-
(頭数)	(9)	(3)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,727	-	1,563	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	-	1,742	1,699	1,622	-
C	-	-	1,676	1,557	-
豚	545	513	480	455	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	12月25日	12月24日	(12月累計)
豚	76,400	79,200	1,286,900
成牛計	2,350	3,190	91,120
和牛雌	440	550	22,040
和牛去勢	480	490	25,080
乳牛雌	790	1,030	13,770
乳牛去勢	130	380	9,180
交雑雌	190	370	9,530
交雑去	310	360	11,370

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 12月25日

東京	1,449円	(前日 1,493円)
大阪	1,680円	(前日 1,616円)

[豚・全農建値] 12月25日

上	中	取引頭数	市況
567円	521円	1,287頭	急落

と畜 売買	牛 - 頭 牛 46 頭	豚 167 頭 豚 168 頭	牛概況 豚概況	もちあい 続落
----------	-----------------	--------------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 12月25日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	-	-	もちあい
仙台 [中]	608 (634)	562 (565)	574	126	続落
宇都宮 [地]	- (-)	410 (-)	1,849	25	-
茨城 [地]	598 (627)	571 (607)	1,583	826	続落
群馬 [地]	530 (618)	426 (534)	2,561	529	急続落
さいたま [中]	524 (609)	484 (563)	191	188	急続落
東京 [中]	545 (628)	500 (585)	936	1,013	続急落
横浜 [中]	633 (640)	580 (607)	663	662	続落
山梨 [地]	629 (658)	575 (651)	213	171	下押し
浜松 [地]	600 (593)	541 (528)	310	30	上伸
名古屋 [中]	560 (617)	549 (591)	992	278	下押し
京都 [中]	- (642)	- (622)	-	-	休市
大阪 [中]	513 (513)	480 (471)	167	50	続落
神戸 [中]	661 (694)	654 (710)	-	85	下押し
岡山 [地]	650 (658)	672 (636)	342	344	弱含み
広島 [中]	582 (595)	527 (532)	188	116	続落
福岡 [中]	596 (628)	554 (590)	576	200	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 12月18日~12月24日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,737,994 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,196	1,314	1,351	1,300	93,622
うで	756	810	820	804	144,314
ロース	1,068	1,203	1,294	1,199	138,319
ばら	1,242	1,308	1,366	1,298	199,907
もも	756	801	824	792	205,341
ヒレ	1,080	1,157	1,416	1,203	11,471
セット	1,002	1,047	1,071	1,043	945,020

◇近畿圏 総重量 778,675 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,285	1,372	1,408	1,367	74,272
うで	728	754	787	757	98,283
ロース	1,134	1,236	1,269	1,217	108,517
ばら	1,269	1,342	1,398	1,322	153,259
もも	702	742	756	734	166,473
ヒレ	1,107	1,296	1,344	1,266	11,330
セット	933	982	1,082	1,000	166,541

[食鳥正肉日経相場] 12月24日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	704	746	853	167
ムネ	374	400	516	117

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	701	767	1,030	11
ムネ	385	442	590	7

[農水省統計情報部食鳥市況] 12月24日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均					

24日分は27日掲載

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる
数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全
日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

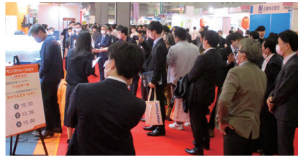
銘柄豚肉
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、
最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする
今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする
食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方
牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳
DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995